

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市縄文の森広場	
2 指定管理者	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》	・ 令和3年度 12,582人 (前年度比 148.2%) ・ 令和2年度 8,491人 (前年度比 33.3%) ・ 令和元年度 25,462人
	《事業》	・ 山田上ノ台遺跡の常設展示及び野外展示、縄文時代に関わる展示事業 (企画展示) ・ 講座やイベント、体験学習を通じた教育普及事業及び調査・研究事業
5 収支の状況	《費用》	()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 67,618千円 (67,663千円) ・ その他市が負担した費用 493千円 (0千円)
	《収入》	・ 使用料収入 341千円 (235千円) ・ その他収入 475千円 (269千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケートを令和3年12月に実施 ・ 運営懇談会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止	

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、山田上ノ台遺跡の保存・公開、縄文時代の復元林・復元住居の管理・公開等について、職員が十分理解している。また、縄文時代の調査・研究、展示、体験活動を主とする普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書の通り開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護や事故防止対策、事故・災害発生時の対応体制も確立され、事故等発生時には所管課へ迅速に報告書が提出されている。毎朝の職員朝礼が行われ、連絡事項だけでなく、過去の事故事例等を踏まえた改善策・再発防止策も共有されており、安全性の向上に努めている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境を保持し、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。野外展示の復元林・復元住居および植栽についても、適切な維持管理が行われている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティング等を通じて共有し、改善を図っている。また、パンフレットやチラシのほか、ホームページやFacebook・YouTubeなどのウェブ上の広報媒体を通じて幅広い世代に情報を発信し、広報活動にも積極的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、事業計画書に従って適切に事業を実施している。また、イベントを通して近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築し、発展的に事業を展開している。	14/14

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館と体験学習の利用制限が行われ、館本来の機能を発揮することができず、利用者へ十分なサービスの提供ができなかった。ただし、制限下においても最大限の魅力を発信できるよう以下の取り組みを行った。

管理運営にあたっては、これまでの経験で培ってきた感染症対策を継続して実施し、状況に合わせた対応を行った。その結果、利用者に安心・安全な環境を整備し、最大限のサービスを提供することができた。

展示事業に関しては、遠方からの資料借用の見通しが立たなかったため、仙台市内の資料を中心に展示を組み立て、改めて仙台市内の縄文遺跡の魅力について発信できた。また、3Dモデルの活用等を通じて、新しい展示手法の構築も試みた。

体験学習の中核を担う随時体験（勾玉づくり、石のアクセサリーづくり等）は、土日祝日のみ申込制で体験メニューを限定して実施した。感染状況を踏まえながら、実施回数やメニュー等を少しずつ増やしている。また、前年度に引き続きクイズラリーを実施し、利用者の満足度向上に寄与できた。人数やメニューを限定したことを考慮し、体験メニューの材料の販売を開始し、収入の確保および利用者満足度の向上を図った。

学校利用では、利用学習事業に19校が参加した。コロナ禍のため校外学習が限定された状況で、学校利用の受け皿として機能できたことは教育的観点から大きな意義があった。また、地域協働事業としては、近隣小学校や児童館などとの連携は感染症の問題から十分に進められなかったが、関係性が途切れないように連絡を密に取り合うように心がけた。

各種講座等では、対面とオンラインを融合した形式で、継続して実施したことで、遠方からの参加者の増加や、職員のスキルの向上がみられ、相対的な館の魅力向上につながっている。

《施設設置者（仙台市）による評価》

施設の管理運営体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、縄文時代の復元林や竪穴住居の日常管理が行われ、異常や事故が発生した際にも適切に対応している。体験学習を主とする施設のため、新型コロナウイルス感染症対策に伴い活動内容が大きく制限されたが、利用者数はやや持ち直してきている。コロナ禍を意識した運用マニュアルをもとに安心・安全な運営が心掛けられ、講座等のオンライン配信も的確に用いられている。体験材料の販売や製作指南動画の作成、国際交流・最先端技術の導入による展示手法の開発など、意欲的に新たな取り組みを行ったことは評価される。

普及啓発事業については、昨年度より多くの小中学校の利用学習に対応したり、例年より縮小した「縄文まつり」で近隣校・市民サークルと一緒に演奏会を実施するなど、感染症対策を取りながら学習機会の提供や地域協働の取り組みに努めている。また、Facebook・YouTube等の広報ツールが積極的に活用され、博物館情報を幅広く発信している。

総合評価

S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

コロナ禍のため受け入れ人数や回数を制限している中で、より多くの人に体験活動を提供できるように体験材料の販売を開始した。自宅でも製作可能なようにYouTubeでの製作指南動画も作成して、利用者の便を図った。

管理面では、開館から15年以上経過し、設備の劣化が多く認められるが、経費削減の努力を行い、可能な限り修繕し、利用者の安全を確保した。

自主事業としては、展示手法の開発を目的として、「リビング・ヒストリー」と「3次元データ制作」の二本柱で事業を展開した。「リビング・ヒストリー」とは、展示資料と見学者を仲介する解説者が、言葉や行動等、その時代の人間になりきって「生きた歴史」を伝えようとする展示手法であり、欧米を中心に実践されているものである。令和3年度は特に石器製作に焦点を当て、これまで培ってきた国際的なネットワークを活用し、韓国漣川郡全谷先史博物館館長によるハンドアックス製作実演のセミナーをオンラインで開催した。国際交流の一環としても位置付けられ、対面のみではない多様な事業実施の方法を模索した（令和4年度以降も継続して実施予定）。「3次元データ制作」では、当館が収蔵する山田上ノ台遺跡の土器を中心として3Dモデルを作成し、最先端技術でのアーカイブ化を行った。外部に委託することなく、館職員の技術や知識でモデルを制作できるようになったことで、スピーディーに安価で大量に制作可能となった。制作したデータは、展示事業に活用するなどして好評を得た。今後は、アーカイブの公開および研究等への活用を積極的に進めていく予定である。

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課